

# ご存じですか！文化財

55

## 龍興寺の庚申塔と石敢当

市指定有形民俗文化財 昭和56年12月2日指定



問合せ  
生涯学習課  
(☎0480・62・1223)



所在地 上崎1890 龍興寺

敢当」の文字が刻まれ、左側面に「明和八年卯晚春日」、右側面に「石橋施主回心」とあります。石敢当の造立は東日本では珍しく、市内では、千方神社(加須地内)に文化14(1817)年に造立された石敢当(市指定有形文化財)もあります。

龍興寺の参道を入ると、すぐ左側に高さ80cmの小さな庚申塔があります。長年の風雪に耐えてかなり摩耗していますが、正面には、青面金剛像が邪気を踏み、その下に三猿像(見ざる・聞かざる・言わざる)が刻まれています。この石塔は、騎西地域にある82基の庚申塔のうち最古のもので、江戸時代前期の寛文6(1666)年に造立されたといわれます。

庚申塔は、長寿を願った庚申信仰によるもの、石敢当は、魔物の侵入を防ぐためのものとしてどちらも中国から伝わったとされています。こうした石塔は、古の信仰を現代に生きる者に静かに語りかけているような気がします。

さらに参道を進むと、山門の手前に石敢当(市指定有形民俗文化財)があります。石敢当は高さ70cmの角柱で、正面に「石



紹介者 新井 敏夫さん(上崎)

高さ70cmの角柱で、正面に「石